



平成26年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年7月31日

上場会社名 東武鉄道株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 9001 URL http://www.tobu.co.jp/  
 代表者 (役職名) 取締役社長 (氏名) 根津 嘉澄  
 問合せ先責任者 (役職名) 財務部主計担当課長 (氏名) 木山 一郎 (TEL) 03-5962-2183  
 四半期報告書提出予定日 平成25年8月14日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第1四半期の連結業績 (平成25年4月1日～平成25年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第1四半期	144,117	4.3	16,855	45.4	15,256	69.2	9,853	114.2
25年3月期第1四半期	138,225	2.5	11,589	46.2	9,015	32.4	4,600	24.0

(注) 包括利益 26年3月期第1四半期 12,692百万円(208.6%) 25年3月期第1四半期 4,112百万円(48.4%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第1四半期	9.22	9.19
25年3月期第1四半期	4.30	4.29

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年3月期第1四半期	1,452,834	336,974	22.0
25年3月期	1,463,370	327,739	21.2

(参考) 自己資本 26年3月期第1四半期 319,839百万円 25年3月期 310,876百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	-	3.00	-	3.00	6.00
26年3月期	-	-	-	-	-
26年3月期(予想)	-	3.00	-	3.00	6.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

※上記の25年3月期および26年3月期(予想)の配当金の内訳は、第2四半期末および期末それぞれ普通配当2円50銭、記念配当0円50銭であります。

3. 平成26年3月期の連結業績予想 (平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	283,000	0.4	25,500	7.4	23,500	13.0	13,500	16.7	12.63
通期	578,000	0.1	53,000	0.9	49,000	3.1	29,000	1.2	27.14

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

26年3月期1Q	1,075,540,607株	25年3月期	1,075,540,607株
26年3月期1Q	7,002,001株	25年3月期	6,988,958株
26年3月期1Q	1,068,544,484株	25年3月期1Q	1,068,788,327株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表の四半期レビュー手続が実施中であります。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等はさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信 (添付資料) P. 3 「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報)	8
4. 補足情報	9
鉄道事業旅客収入及び旅客人員表(個別)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の経済対策や円高是正などにより一部に持ち直しの動きが見られたものの、海外景気の減速や上昇を続けていた株価も調整局面を迎えるなど、経済情勢について先行き不透明な状況となっております。

このような情勢下にあります、当社グループでは、安全はすべての事業の根幹であるとの認識のうえ、「東武グループ中期経営計画2010～2013」にもとづき、将来にわたる持続的成長を目指し、昨年に引き続き好調に推移している「東京スカイツリータウン®」をはじめとし、各事業において東京スカイツリータウンと連携した施策を実施し、グループ全体での積極的な事業の推進と収益向上をはかりました。

当第1四半期連結累計期間の連結業績は、東京スカイツリータウンによる各事業への相乗効果等により、営業収益は144,117百万円（前年同期比4.3%増）、営業利益は16,855百万円（前年同期比45.4%増）、経常利益は15,256百万円（前年同期比69.2%増）、四半期純利益は9,853百万円（前年同期比114.2%増）となりました。

セグメント情報の業績を示すと、次のとおりであります。

## (運輸事業)

鉄道業におきまして、当社では、安全を最優先に、より多くのお客様にご利用いただけるよう、さまざまな取り組みを進めております。

安全・安定輸送面では、輸送障害時において東武スカイツリーラインから東京メトロ半蔵門線に乗り入れる押上～曳舟間の運行を確保するため、押上駅から東武スカイツリーライン方面への折返し設備の新設工事を開始いたしました。また、伊勢崎駅付近および野田市駅付近の高架化工事を推進したほか、竹ノ塚駅付近高架化工事についても本格的な工事着手に向け準備を進めました。その他、東上線新運転保安システムおよび運行管理システムの構築や防災対策工事等を引き続き進めております。

なお、昨年度に実施した「鉄道輸送の安全」確保に関する取組みや事故等の発生状況などを広くご理解いただくため、6月に「2013安全報告書」をホームページで公表いたしました。

営業・サービス面では、5月22日に開業1周年を迎えた東京スカイツリータウンと連携し、記念企画乗車券や限定グッズの発売等を実施いたしました。また、記念ヘッドマークを付けた車両を野田線や東上線等において運転し、開業1周年の賑わいを沿線各地域に波及すべく、全線一体となった宣伝活動を実施いたしました。特に亀戸線においては、浅草・亀戸等の下町観光名所を東京スカイツリー公式キャラクターと共に浮世絵風に描いたラッピング車両「下町トレイン」を運転いたしました。その他、NHK大河ドラマの放映等により注目を浴びている会津方面への送客を活性化すべく、展望列車634型「スカイツリートレイン」の野岩線・会津線への乗り入れを4月26日より開始いたしました。

なお、野田線に新型車両60000系を2編成12両導入したことに伴い、6月9日に車両基地にてデビューイベントを実施したほか、営業運転初日となる6月15日には柏駅にて出発式典を開催いたしました。この60000系は、代替する8000系車両に比べ、バリアフリー・省エネルギー・省メンテナンス化により使用電力が約40%削減となるほか、車内案内用液晶ディスプレイを設置、当社車両では初となる公衆無線LANサービスを開始するなど、人と環境にやさしい車両となります。今年度は更に6編成36両の新造を行います。

バス・タクシー業におきまして、東武バスセントラル(株)では、4月16日にスカイツリーシャトル®4路線のダイヤ改正を行い、お客様の利便性向上に努め、5月22日にスカイツリータウン開業1周年を記念して、同シャトル上野浅草線のポストカード型「1日フリー乗車券」を発売いたしました。東武バス(株)においても開業1周年企画として、東京スカイツリー天望デッキ®をご見学いただく東上線「和光市駅」発着のチャリティーツアーサンクスバスを運行し、ツアー代金全額を日本赤十字社に寄付いたしました。また、関越交通(株)では、5月24日より、高速バス尾瀬号の東上線「川越駅」西口への乗り入れを開始いたしました。

この結果、運輸事業全体として、営業収益は52,974百万円（前年同期比1.0%増）、営業利益は9,658百万円（前年同期比1.4%増）となりました。

## (レジャー事業)

スカイツリー業におきまして、ゴールドデンウィークより子供向けキャラクターダンスイベントや、下町地域回遊スタンプラリーを実施したほか、5月22日の開業1周年を迎えるにあたり、お客様への感謝をテーマに、特別ライティングや歓迎セレモニー、ショートムービーの公開、地域連携企画等各種記念イベントを実施し、集客とPR活動に努めました。さらに、5月31日からはテレビ在京6社による本放送が開始されています。

遊園地・観光業におきまして、東武レジャー企画(株)の東武動物公園では、農場をイメージした「ハートフルファーム」内に新観覧車「エマさんのチーズ風車」および屋内キッズ遊具施設「ブーニーさんの野菜工場」を新たに導入し、遊園地エリアの更なる魅力向上をはかりました。また、3月にはホワイトタイガーに4頭の赤ちゃんが誕生し、一般公開や子トラの名前を来園者から募集するなどして集客に努めました。東武ワールドスクウェア(株)では、開業20周年を記念して改修・復元を進めていた展示物「中国・故宮」を竣工し、また、開園記念日に入園無料とするなどイベント企画においても積極的に取り組みました。

スポーツ業におきまして、(株)東武スポーツでは、開業30周年を記念して30円バックのキャンペーンを展開するとともに、会員を対象としたエイベックス・ダンスマスター共催による「Dancefes vol.3」などのイベントを開催いたしました。

ホテル業におきまして、東京スカイツリーオフィシャルホテルの3ホテルで天望デッキ入場券引換券付き宿泊プラン等を販売し、増収に努めました。コートヤード・マリオット銀座東武ホテルでは、レストラン「フィオーレ」のリニューアルが奏功し、好調に推移しました。また、仙台国際ホテル(株)では4階の披露宴会場「広瀬」をリニューアルオープンし、集客に努めました。

レジャー事業全体として、前年5月22日にグランドオープンした東京スカイツリータウンの通期寄与の影響等により、営業収益は16,634百万円（前年同期比5.5%増）、営業利益は2,848百万円（前年同期は52百万円の営業損失）となりました。

## (不動産事業)

スカイツリータウン業におきまして、当社では、東京スカイツリー®の足元に広がる商業施設「東京ソラマチ®」において、開業1周年を記念した「ソラマチ大道芸フェスティバル」やプレゼントキャンペーン等の各種イベントを実施し、誘客および収益確保をはかりました。また、オフィス施設「東京スカイツリーイーストタワー®」において、テナント誘致を鋭意進めました。

不動産賃貸業におきまして、当社では保有資産を有効活用し、安定的な収益確保および沿線価値の向上をはかるため、松原団地高架下店舗の全面リニューアルを実施したほか、新柏駅前ビル・柳瀬川西口店舗のテナント入替をはかるなど、駅および周辺施設の充実と増収に努めました。

不動産分譲業におきまして、沿線価値向上と定住人口の増加並びに収益確保のため、「ブリリア有明スカイタワー」（江東区有明）のマンション分譲をはじめ、春日部市大沼、鶴ヶ島市藤金等で土地を販売いたしました。

不動産事業全体として、東京スカイツリーイーストタワーをはじめとするテナントリーシングが順調に推移したこと等により、営業収益は12,483百万円（前年同期比12.4%増）、営業利益は2,194百万円（前年同期比102.6%増）となりました。

## (流通事業)

流通業におきまして、(株)東武百貨店では、池袋店において東上線と東急東横線、横浜高速みなとみらい線との相互直通運転開始を記念し、「TJライナー」をモチーフとしたケーキや大吟醸酒といった限定商品を販売したほか、「初夏の大北海道展」など人気のある催事を開催し、集客に努めました。

また、(株)東武宇都宮百貨店では、4月24日に宇都宮本店8階レストラン街「スパイス」をリニューアルオープンし、コンセプトである「おいしい・おしゃれ」に相応しい6テナントが出店しております。

この結果、流通事業全体として、営業収益は51,604百万円（前年同期比1.9%増）、営業利益は597百万円（前年同期比51.8%増）となりました。

## (その他事業)

建設業におきまして、東武建設(株)では、鴨川市において温泉ホテルの増改築工事を受注いたしました。また、東武谷内田建設(株)では大型地下道路の建設工事を、東武緑地(株)では所沢市において貯水池草刈作業等の委託業務を、それぞれ受注いたしました。

この結果、その他事業全体として、営業収益は22,966百万円（前年同期比11.6%増）、営業利益は1,544百万円（前年同期比156.2%増）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、減価償却の進行による固定資産の減少等により1,452,834百万円となり、前連結会計年度末と比べ10,535百万円（前期比0.7%減）の減少となりました。

負債は、設備投資関係等の未払金が減少したこと等により1,115,860百万円となり、前連結会計年度末と比べ19,770百万円（前期比1.7%減）の減少となりました。

純資産は、その他有価証券評価差額金や四半期純利益の計上等により336,974百万円となり、前連結会計年度と比べ9,235百万円（前期比2.8%増）の増加となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第1四半期連結累計期間の経営成績につきましては、概ね計画通り順調に推移しております。従って、平成26年3月期第2四半期連結累計期間および通期の業績予想につきましては、前回発表時（平成25年4月30日公表）の予想を変更していません。

## 2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

## (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

## (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

## (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	23,499	21,357
受取手形及び売掛金	42,807	43,915
分譲土地建物	39,052	39,493
その他	35,610	30,669
貸倒引当金	△677	△663
流動資産合計	140,291	134,772
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	568,567	563,364
土地	501,479	501,492
その他(純額)	117,946	114,551
有形固定資産合計	1,187,993	1,179,408
無形固定資産		
	20,239	19,679
投資その他の資産		
投資有価証券	70,595	75,329
その他	47,235	46,083
貸倒引当金	△2,985	△2,438
投資その他の資産合計	114,845	118,974
固定資産合計	1,323,078	1,318,062
資産合計	1,463,370	1,452,834

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	28,275	29,386
短期借入金	44,172	54,530
1年内返済予定の長期借入金	118,881	117,871
1年内償還予定の社債	19,700	10,000
引当金	5,347	6,162
その他	141,494	115,383
流動負債合計	357,871	333,334
固定負債		
社債	119,870	129,670
長期借入金	453,225	447,161
退職給付引当金	40,795	41,726
その他の引当金	1,243	1,070
その他	155,391	156,567
固定負債合計	770,525	776,195
特別法上の準備金		
特定都市鉄道整備準備金	7,234	6,330
特別法上の準備金合計	7,234	6,330
負債合計	1,135,630	1,115,860
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	102,135	102,135
資本剰余金	70,398	70,398
利益剰余金	90,050	96,640
自己株式	△3,435	△3,442
株主資本合計	259,149	265,732
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	12,957	15,302
土地再評価差額金	38,769	38,805
その他の包括利益累計額合計	51,727	54,107
少数株主持分	16,862	17,134
純資産合計	327,739	336,974
負債純資産合計	1,463,370	1,452,834

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 四半期連結損益計算書  
 第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
営業収益	138,225	144,117
営業費		
運輸業等営業費及び売上原価	97,294	97,647
販売費及び一般管理費	29,341	29,614
営業費合計	126,635	127,262
営業利益	11,589	16,855
営業外収益		
受取配当金	357	433
保険配当金	434	437
その他	605	602
営業外収益合計	1,397	1,474
営業外費用		
支払利息	3,060	2,706
その他	911	366
営業外費用合計	3,972	3,073
経常利益	9,015	15,256
特別利益		
特定都市鉄道整備準備金取崩額	904	904
その他	470	507
特別利益合計	1,374	1,412
特別損失		
固定資産除却損	619	147
固定資産圧縮損	124	168
その他	208	61
特別損失合計	951	376
税金等調整前四半期純利益	9,438	16,291
法人税、住民税及び事業税	5,442	6,192
法人税等調整額	△690	△243
法人税等合計	4,752	5,948
少数株主損益調整前四半期純利益	4,685	10,342
少数株主利益	85	489
四半期純利益	4,600	9,853

四半期連結包括利益計算書  
第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	4,685	10,342
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△564	2,344
持分法適用会社に対する持分相当額	△9	4
その他の包括利益合計	△573	2,349
四半期包括利益	4,112	12,692
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	4,027	12,197
少数株主に係る四半期包括利益	85	494

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

## I 前第1四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年6月30日)

報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	運輸事業	レジャー 事業	不動産事業	流通事業	その他事業	計		
営業収益								
(1) 外部顧客への 営業収益	51,707	15,341	6,496	49,866	14,814	138,225	—	138,225
(2) セグメント間 の内部営業収 益又は振替高	732	430	4,609	786	5,764	12,323	△12,323	—
計	52,439	15,771	11,106	50,652	20,578	150,549	△12,323	138,225
セグメント利益 又は損失(△)	9,527	△52	1,083	393	602	11,554	34	11,589

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額は、セグメント間取引消去であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## II 当第1四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年6月30日)

報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	運輸事業	レジャー 事業	不動産事業	流通事業	その他事業	計		
営業収益								
(1) 外部顧客への 営業収益	52,185	16,231	7,877	50,959	16,863	144,117	—	144,117
(2) セグメント間 の内部営業収 益又は振替高	788	403	4,605	645	6,102	12,545	△12,545	—
計	52,974	16,634	12,483	51,604	22,966	156,663	△12,545	144,117
セグメント利益 又は損失(△)	9,658	2,848	2,194	597	1,544	16,843	12	16,855

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額は、セグメント間取引消去であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 4. 補足情報

鉄道事業旅客収入及び旅客人員表（個別）  
（決算）

		前第1四半期 自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日	当第1四半期 自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日	比較増減率
旅客 収 入	定期外	19,152百万円	19,359百万円	1.1%
	定期	16,564百万円	16,659百万円	0.6%
	合計	35,716百万円	36,018百万円	0.8%
旅客 人 員	定期外	77,128千人	77,628千人	0.6%
	定期	149,103千人	150,408千人	0.9%
	合計	226,231千人	228,037千人	0.8%

※定期外旅客収入は、特急料金を含んでおります。

※単位未満端数四捨五入で表示しております。